みんな仲間、集まれ「ウェルフェア塾」

社会福祉法人ハルモニア
〒426-0066　静岡県藤枝市青葉町 2 丁目 11-1

助成事業の概要

　ウェルフェア塾では、施設機能を広く地域社会に提供し、障害を持つ人も持たない人も、幼児から高齢者までがともにふれあい、交流体験学習を通じて地域福祉を理解するとともに、地域で暮らす一人ひとりが、生活圏域での居場所の確保を考える機会を提供することを目的として実施した。福祉講座では、当事者と講師との対談を通してインクルージョンに対する知識を深め、課題提起を行った。また、法人職員（新任職員、2 年目職員）が職員研修としての位置づけで事業に参加した。

（1）「ウェルフェア塾」
実施日：
1 回目：平成 25 年 6 月 22 日（土）9:00～12：00
2 回目：8 月 24 日（土）9：00～12：00
3 回目： 12 月 21 日（土）9：00～12：00
※10 月 26 日（土）に実施する予定であったが台風のため中止となった。
場　所：ハルモニア、ガゼルの森、藤枝特別支援学校、藤枝市勤労青少年ホーム他。
内　容：
5 コースに分かれて交流体験学習を実施した。
1. とどけ歌声楽しい居場所　講師：夢音
2. サッカーボールでナイスキック　講師：北村敦子氏　/　藤枝市体育協会指導員（株）藤枝MYFC 選手
3. 昔遊びで心のふれあい　講師：小林泰之 氏 / 子ども生き生き研究会代表
4. 世界に一つしかないお菓子作り　講師：社会福祉法人ハルモニア職員
5. みんなで楽しむニュースポーツ　講師：静岡県障害者スポーツ指導者協議会職員

（2）「福祉講座」
実施日：平成 26 年 2 月 15 日（土） 9：30～12：00
場　所：ハルモニア
内 容：「インクルージョン　みんないっしょ」
講師：渡辺明広 氏 / 静岡大学大学院教授
第 1 部 「利用者からみた地域社会」渡辺教授とハルモニア利用者の会「レモンの会」との対談。
第 2 部 「共生社会　みんなといっしょに」渡辺教授による講演。

事業の成果

　ウェルフェア塾　3 回のウェルフェア塾の実践プログラムに、延べ 477 名が参加した。

「とどけ歌声楽しい居場所」

　参加者（ハルモニア利用者 66 名、一般参加 10 名、ボランティア 3 名、延べ 97 名）
　年配の方が多く参加した。懐かしの歌を参加者からリクエストしてもらうなど、楽しく歌を歌うことで触れ合いながら会を進めることができた。「歌を歌うと気持ちが良い」、「すっきりした」といった感想をたくさんいただいた。

「サッカーボールでナイスキック」

参加者（利用者50名、一般18名、ボランティア13名、延べ100名）

子どもから大人まで幅広い年齢層が参加し、サッカーを通して体を動かすことを楽しむことができた。講師である藤枝MYFC の選手から、「参加者と一緒に楽しむことができて良かった。障害のある方々とサッカーを通して触れ合う経験ができて、これからにつなげていきたい」と感想をいただいた。

「昔遊びで心のふれあい」

参加者（利用者28名、一般39名、ボランティア12名、延べ97名）

障害のある子どもとその保護者を中心に、戸外の散策や制作（紙飛行機や割り箸鉄砲など）、コマ回し、メンコなどの昔遊びを行った。制作の過程では、参加者同士が作り方を聞き合ったり、手伝ったりする姿が随所に見受けられた。土曜保育の子どもたちも参加することで、子ども同士の交流の場になった。

「世界に一つしかないお菓子作り」

参加者（利用者44名、一般20名、ボランティア5名、延べ85名）

小グループに分かれて、ケーキやクッキーなどのお菓子作りを行った。出来上がったケーキは、個性的なものが多く、お互いに写真を取り合ったりしながら、グループ内で盛り上がった。お菓子を作りながら、互いに話し合う姿が見受けられ、アットホームな雰囲気で行うことができた。

「みんなで楽しむニューススポーツ」

参加者（利用者25名一般36名ボランティア20名延べ98名）

子どもからお年寄りまで幅広い年齢層で参加していただくことができた。フライングディスクやボッチャなどの協議を参加者に合わせて全員が取り組める内容にすることで、楽しみながら体を動かしていただくことができた。ウェルフェア塾終了後、一般参加の方（障害のある方）が、静岡県の中学生代表としてフライングディスクの全国大会に県の代表として参加することが決まったということを、参加した保護者から連絡をいただくこともあった。

「福祉講座」

参加者（利用者、一般、職員を含め37名が参加）

第１部では、レモンの会からの様々な話題が出された。仕事や趣味の話に始まり、友だちや地域とのかかわり、消費税増税に伴い自分たちの給料は上がるのかといった、切実な問題までさまざまな意見交換がなされた。

第２部では、インクルージョンは物理的な場の共有だけでなく合理的な配慮を伴った場の共有に進んでいくこと、地域に溶け込んでいくことの大切さを実感する機会となった。

成果の広報、公表

「ウェルフェアだより」･･･各コーナーの様子や次回の開催案内等を載せたおたよりを４回発行し、ウェルフェア塾参加者やハルモニア利用者等に配布した。

「ハルモニア広報誌」･･･

1. ウェルフェア塾第 1 回目の実施報告をハルモニア広報誌（平成25年９月発行）に掲載した。
2. 福祉講座の実施報告をハルモニア広報誌（平

成 26 年 3 月発行）に掲載した。（現在作成中）
ハルモニア広報誌は年 2 回（9 月、3 月）発行し、法人の福祉サービスの利用者、関係機関、ウェルフェア塾参加者、法人の見学者等に 1400 部ほど配布している。

「ウェルフェア塾事業報告書」･･･事業内容の報告書を 100 部作成し、法人職員、後援団体を含めた関係機関に配布する予定。

今後の展開

　みんな仲間、集まれ「ウェルフェア塾」事業は、来年度も継続して実施する予定である。参加者一人ひとりがウェルフェア塾を通して関わり、人と人とがふれあう中で学び合う機会を提供していきたい。
　今年度は延べ 477 名の方々が「ウェルフェア塾」事業に参加していただいた。一般の参加者は、延べ 123 名の参加となった。来年度はさらに幅広く広報を行うことで、一般からの参加人数を増やしていくことができるようにしていきたい。また、ボランティアへの呼びかけも積極的に行っていきたい。延べ 53 名のボランティアが参加し、多くが高校生や大学生であった。「ウェルフェア塾を通して障害者への意識が変わった」などの感想を多くいただいたため、今後も障害福祉に関心のあるボランティアの方々に、ウェルフェア塾事業を通して「障害のある人もない人もみんな一緒」というインクルージョンの視点について理解を促していきたい。ハルモニア利用者への参加呼びかけの他、行政機関や教育機関、地域の公共施設等へのPRを行い、事業全体を盛り上げていくようにしたい。